

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 1月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0197600299		
法人名	有限会社 アルファ・ヘルプ・サービス		
事業所名	グループホーム ベつかり海の家		
所在地	石狩市厚田区別狩92番地4 (電話) 0133-78-2222		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年1月18日	評価確定日	平成22年2月8日

【情報提供票より】(平成 21年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人、非常勤 4人、常勤換算	4.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	上下水道光熱費:12,000円 暖房費:5,000円(10月~4月)
敷金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(1月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名
要介護 3	0 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あつた中央クリニック、石狩病院、はまなす医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌から車で1時間半ほどの海沿いの丘の上にある平屋建てのグループホームである。建物は共用空間が広く、トイレやお風呂などもゆったりしており、事業所のホールや広めのお風呂などの共用施設も利用できるようになっている。室内は利用者の写真や手作りの装飾が施され、海の眺望も素晴らしく、親しみやすく快適な環境が作られている。運営推進会議や家族会などが定期的に開催され、家族や地域への報告や説明が行き届いている。地区内の住宅地とはやや離れているが、地域との交流は活発にできている。職員は利用者を大切にしており、おだやかでゆったりと過ごしている。現在は1ユニットであるが2月に1ユニット増設する予定であり、一層のサービスの充実に向けて前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」について、「家族への報告」「プライバシーの確保」「栄養摂取や水分確保の支援」などの項目を中心に積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものをもとに話し合っており取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度、地域包括支援センター、町内会長、老人クラブ会長、利用者家族代表などが参加して開催している。活動報告のほか行事の検討、サービス評価などをテーマに意見交換しており、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に1回、家族会を開催しており、運営推進会議にも家族の参加を得て意見交換している。また介護計画の説明をする際にも家族から意見をもらっている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会には参加できていないが、回覧板を回してもらい地域の情報を入手している。地域の商店や理容院を利用したり、老人保健施設のお祭りに参加している。また小学校の運動会を見に行ったり、家族会開催時に地域の人をホームに招いたりしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合っって作り上げた理念の中に「人と人とのつながりを大切にします」という文言があり、その中に地域との関わり合いを大切にすることを込めているが、地域密着型としての方針をより明確にしたい意向を持っている。		理念の見直しにあたり、地域との交流や関わり合いについてより明確に盛り込まれることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は玄関ホールやユニット内に掲示している。理念は職員が話し合っって作成したものであり、申し送りや会議の際に確認し合うなど共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には参加できていないが、回覧板を回してもらい地域の情報を入手している。地域の商店や理容院を利用したり、老人保健施設のお祭りに参加している。また小学校の運動会を見に行ったり、家族会開催時に地域の人をホームに招いたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものをもとに話し合っって取りまとめている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても「家族への報告」「プライバシーの確保」「栄養摂取や水分確保の支援」などの項目を中心に積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、地域包括支援センター、町内会長、老人クラブ会長、利用者家族代表などが参加して開催している。活動報告のほか行事の検討、サービス評価などをテーマに意見交換しており、議事録も整備している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内で開催される「地域ケア会議」「ケース検討会」に施設長や介護支援専門員が参加しており、市役所および地域包括支援センター職員や地域の他の介護施設との情報交換を行っている。また2月のユニット増築に向けて市役所に必要な相談を行っている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告している。また、利用者ごとに内容を変えた「ホーム通信」を毎月作成しており、金銭出納報告とともに家族に送付している。職員の異動についても「通信」で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催しており、運営推進会議にも家族の参加を得て意見交換している。また介護計画の説明をする際にも家族から意見をもらっている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は利用者にダメージを与えないよう、十分な引き継ぎ期間を設けたり、利用者の性格や状況によっては退職することをストレートには伝えないなど利用者に応じた対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修として、月1回のミーティング時に勉強会を行っている。外部研修の参加は、管理者研修や実践者研修の受講や資格試験の受験を奨励するなど会社全体で支援する方針としている。一方、外部研修の参加回数は職員によって偏りがあり、研修参加後の報告も十分とはいえない。</p>		<p>職員を育成するための計画を策定し、全職員に段階に応じた外部研修の機会が与えられるような体制作りを期待する。またミーティングなどの研修結果の共有化についても期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設長や介護支援専門員は地域ケア会議やケース検討会などで他の施設との交流機会があるが、その他の職員は他の同業者と交流する機会がほとんどない。</p>		<p>地区内には他にグループホームがなく難しい環境にあるが、ネットワークを通じて職員レベルでも他のグループホームや介護施設と情報交換ができる機会の確保を期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者のほとんどは利用開始前にホームを見学を訪れ、納得、安心した上で入居を決めている。利用者にはできるだけ馴染みのものを部屋に持ち込んでもらっている。土地柄もあり、利用者同士の言葉遣いがきつく聞こえる場合もあるが、職員が仲介し、やさしく言い換えて説明している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>台所仕事の手伝いや雑巾縫いなど利用者ができることをなるべく手伝ってもらっている。職員は利用者から昔の話を教えてもらい学んだり、時には感謝やいたわりの言葉をかけてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わり合いの中で利用者の希望や意向を把握し実現するようにしている。利用開始時に利用者の基本情報や生活歴、ADL、IADLなどを把握して記録として整備し、職員間で共有化している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に本人や家族から希望を聞き、状況を詳しく把握した上できめ細かな介護計画を作成している。計画には短期、長期の目標のほか、サービス内容を詳しく示している。また作成された介護計画は家族に説明され確認の印を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、ほぼ全職員が参加してモニタリングを行い介護計画を見直している。また状況変化に伴う都度の見直しも行われている。モニタリング表やケアチェックによる見直しは3ヶ月ごとに行っているが、介護計画本体の作成は特に変化がなければ1年ごととなっており、家族への説明機会も限られている。</p>		<p>介護計画についても3ヶ月ごとのモニタリング時に再作成し、家族に意向を確認しながら説明するのが望ましく、また内容に変更がない場合も家族の確認を得て日付を更新し署名を得るのが望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人内の他の事業所の車椅子用の車両を共同で利用することができ、外出時に利用している。理美容については地域の理容院に訪問してもらったり、利用者を車で送迎したりしている。また、家族用の宿泊部屋を用意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関で月1回の通院による定期受診を受けており、希望に応じ、その他の通院支援も行っている。受診結果についても適切に家族に報告している。また週2回、看護師の職員による健康チェックを行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>地域の診療所は札幌市から医師の派遣を受けており、日曜などの急な対応に制限があることから、重度化や終末期についての対応も限界があるため、その旨を家族に説明し、契約段階で重度化に伴う意思確認書を取り交わしている。ホームの方針は職員間でも共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の言葉かけや対応に気になる点がある場合は施設長や管理者が注意している。個人記録は事務所に安全に保管・管理しており、記録作成時もプライバシーに配慮している。また来訪者の受付簿については一覧形式から単票形式に変更している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが、利用者は自由に過ごすことができ、レクリエーションや体操の参加も無理強いはせず自由に参加してもらっている。起床や食事、入浴の時間なども体調に合わせている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に笑顔で楽しく食事をしており、下膳は全員が行っている。利用者は各々が身体能力に応じて食事の準備を職員とともにしている。台所シンク2箇所の高さを変えて利用者に使いやすい方を使ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各利用者が最低週2回の入浴を行っており、概ね曜日を決めているが、希望があれば他の日の入浴も可能である。時間帯は午前、午後どちらでも対応しており、利用者の希望や体調に合わせている。また入浴時間も希望に合わせている。季節に合わせてみかん浴なども行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理やカーテンの開け閉め、カレンダーめくり、食器拭きなど利用者が個々の役割を持っている。編み物や雑巾縫い、書道、塗り絵などの趣味を継続している利用者もいる。尺八や手品などを実演するボランティアを受け入れ、利用者を楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように散歩やホーム周りの散策、畑の世話のため外に出ている。敬老会の行事やお祭り、地域で行われるコンサートに参加している。車椅子対応の車で大型スーパーに買い物に出かけたり、年2回、全員が参加する外出行事を企画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中はなるべく玄関に鍵をかけていないが、玄関前の事務所に職員が不在となる場合は鍵をかけており、内側からも鍵がなければ開かない構造になっている。		日中玄関の鍵をかける場合でも、内側からは開けることができるのが望ましく、センサーを設置したり、防犯対策を同時に検討しながら、圧迫感の少ない方法を検討されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年1回、日中を想定した避難訓練を実施している。また、緊急時には近隣住民の協力を依頼しており、連絡網にも加えさせてもらっている。ホームの開設時に救急救命訓練も実施している。</p>		<p>消防署の協力を得て、夜間および日中を想定した年2回の避難訓練の実施を期待したい。また、職員の新規採用や異動を鑑み、救急救命訓練についても2年に1回程度、定期的にも実施されるよう期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立はホームで作成しているが、運営会社の栄養士が毎週チェックを行っている。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録しており、個々の健康状態や体重変化に合わせて調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者の写真や親しみやすい装飾が施され、明るさや温度、音なども調整され、トイレやお風呂も広く清潔である。手すりも十分に設置されており、風呂場の手すりの増設も検討中である。居間が広く、日本海の水平線が見渡せる開放的で居心地の良い空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者のもともとの馴染みの家具や調度品を持ち込むことができおり、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自分の作品や家族の写真を自由に飾っている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。